

補習授業校の「現実」に即した指導と評価のあり方

前ロンドン補習授業校 教諭

鹿児島大学教育学部附属中学校 教諭 山田 剛

キーワード：補習授業校，個別支援，保護者，評価，通知表

1. はじめに

補習授業校（以下、補習校）に通ってくる子どもたちは、平日は現地校（もしくはインターナショナルスクール）に通っている。彼らは日本へ帰国した際に困らないように、毎週土曜日（もしくは日曜日）に日本の学校で行われているのと同じ内容の授業を受けるために通学している。

本校は、1965年に設立され、現在約1300名の児童生徒が在籍しており、国語教育のみを行う補習校である。子どもたちは、日本からやってきたばかりの駐在家庭の子どももいれば、英国の地で生まれ育ち、日本への帰国予定がまだ定まっていない子どももいる。そのため、補習校においては、様々な子どもたちの日本語の力の差をどう埋めて、帰国後に困らないだけの国語力を身に付けさせるかが最大の課題である。

また、補習校では、年間で約40回しか授業日が設定できないため、その限られた授業回数の中でどのような指導を行い、その指導の結果を評価をしていくのかも難しい課題である（図1）。今回、ロンドン補習校の取り組みを通して、補習校の「現実」に即した指導と評価のあり方について考えていきたい。

日	月	授業日	主な行事	その他の行事
4	6	土	春休み	
4	13	土	第1回 入学式 始業式 教科書配付	・巡回教育相談(1回)
4	20	土	第2回 学級委員補選	
4	27	土	一斉漢字テスト	こいのぼり
5	4	土	第3回 <学級委員の会 総会(各校舎)>	
5	11	土	第4回 <学級委員の会 総会(各校舎)>	
5	18	土	第5回 学級懇話会(小1～小4)	
5	25	土	第6回 学級懇話会(小5～中1)	
6	1	土	第7回	
6	8	土	第8回	
6	15	土	第9回 運動会打合せ	
6	22	土	第10回 運動会	
6	29	土	第11回 チャレンジ漢字テスト	たんぽぽ
7	6	土	第12回 古本行一ル	
7	13	土	第13回 本校校体目	
7	20	土	第14回 終業式	
7	27	土	第15回	
8	3	土	第16回	
8	10	土	第17回	
8	17	土	第18回	
8	24	土	第19回	
8	31	土	第20回 始業式 副教材配付<小学部>	
9	7	土	第21回 遊園訓練	<学級委員の会総会 巡回教育相談(2回)>
9	14	土	第22回	
9	21	土	第23回 学級委員の会総会・園遊委員会総会	
9	28	土	第24回 <小学校体目(学年)>	
10	5	土	第25回 後期教科書配付<小学部>	
10	12	土	第26回	
10	19	土	第27回 一斉漢字テスト	
10	26	土	第28回 古本行一ル	
11	2	土	第29回	
11	9	土	第30回	
11	16	土	第31回 校長会(中級部・小1～中1)・校長会(小1～中1)・校長会(小2～中1)・校長会(小2～中1)	
11	23	土	第32回 チャレンジ漢字テスト	
11	30	土	第33回	
12	7	土	第34回	
12	14	土	第35回 高等部入学式<本校>	
12	21	土	第36回	
12	28	土	第37回	
1	4	土	第38回 冬休み	
1	11	土	第39回 始業式 副教材配付<小学部>	
1	18	土	第40回	<学級委員の会総会 巡回教育相談(2回)>
1	25	土	第41回 学級委員の会総会・園遊委員会総会	
2	1	土	第42回 小学部入学説明会・百人一首大会	
2	8	土	第43回 一斉漢字テスト	
2	15	土	第44回 小学部入学説明会	
2	22	土	第45回	
2	29	土	第46回	
3	6	土	第47回 卒業式(小1～小4)	
3	13	土	第48回	
3	20	土	第49回 卒業式(小5～中1)	
3	27	土	第50回	
4	3	土	第51回 卒業式(終了式)	
4	10	土	第52回	
4	17	土	第53回	
4	24	土	第54回	
4	31	土	第55回	
5	7	土	第56回	
5	14	土	第57回	
5	21	土	第58回	
5	28	土	第59回	
6	4	土	第60回	
6	11	土	第61回	
6	18	土	第62回	
6	25	土	第63回	
7	1	土	第64回	
7	8	土	第65回	
7	15	土	第66回	
7	22	土	第67回	
7	29	土	第68回	
8	5	土	第69回	
8	12	土	第70回	
8	19	土	第71回	
8	26	土	第72回	
9	2	土	第73回	
9	9	土	第74回	
9	16	土	第75回	
9	23	土	第76回	
9	30	土	第77回	
10	6	土	第78回	
10	13	土	第79回	
10	20	土	第80回	
10	27	土	第81回	
11	3	土	第82回	
11	10	土	第83回	
11	17	土	第84回	
11	24	土	第85回	
11	31	土	第86回	
12	7	土	第87回	
12	14	土	第88回	
12	21	土	第89回	
12	28	土	第90回	
1	4	土	第91回	
1	11	土	第92回	
1	18	土	第93回	
1	25	土	第94回	
2	1	土	第95回	
2	8	土	第96回	
2	15	土	第97回	
2	22	土	第98回	
2	29	土	第99回	
3	5	土	第100回	
3	12	土	第101回	
3	19	土	第102回	
3	26	土	第103回	
4	2	土	第104回	
4	9	土	第105回	
4	16	土	第106回	
4	23	土	第107回	
4	30	土	第108回	
5	6	土	第109回	
5	13	土	第110回	
5	20	土	第111回	
5	27	土	第112回	
6	3	土	第113回	
6	10	土	第114回	
6	17	土	第115回	
6	24	土	第116回	
6	31	土	第117回	
7	7	土	第118回	
7	14	土	第119回	
7	21	土	第120回	
7	28	土	第121回	
8	4	土	第122回	
8	11	土	第123回	
8	18	土	第124回	
8	25	土	第125回	
9	1	土	第126回	
9	8	土	第127回	
9	15	土	第128回	
9	22	土	第129回	
9	29	土	第130回	

図1 年間行事予定表

2. 補習校における指導のあり方

(1) 保護者のサポート

補習校は、元をたどると保護者立の学校である。日本から海外に来て生活する上で、日本人学校がない環境下で、自分たちの子どもの日本語力をいかに維持するか、日本に帰国した際に困らないだけの学力をいかにつけるかを悩み、考え、自主的に設立していった学校が補習校である。学校規模が大きくなれば文部科学省からの派遣教員が配置されるが、世界を見ると派遣教員のいない補習校が数多く存在する。

そのため補習校では保護者のサポートが得やすい環境にあるといえる。本校のクロイドン校舎では、小学1年生のクラスに、毎時間、保護者1名に、常に教室に入ってもらっている。仕事内容としては、担任のプリント配布の手伝いや、担任の指示通りに動いているかの見届けや手助け、教室内の安全確保まで様々な仕事をしてもらっている。とりわけ、担任の指示を一度で理解できない子どもや、落ち着きのない子どもへの個別支援の点で、大きな効果がある。

保護者においても、自分の子どもの学級の様子を把握できるとともに、担任の指導方法から家庭での支援のあり方を学ぶなどさまざまな利点がある。子どもにおいても、担任以外の大人が常に見守ってくれている環境は安心できるものである。

担任によっては、保護者がいることが負担に感じる方もいるが、週に一度しかない授業の場でより効率よく指導を行うことを考えると、担任の負担軽減の観点からも保護者に教室に入ってもらい、一緒に子どもたちをサポートしてもらおう体制を整えることが望ましい。

(2) 個に応じた漢字指導

補習校に通う子どもたちに共通する悩みは、日本語に接する機会の少なさである。平日、現地校に通い、英国人として生活している彼らにとって、日本語に接する機会は家庭内と補習校のみというケースが多い。さらに、父親が英国人の場合、日本語を使うのは母親とのみというケースもたくさん見受けられる。そのため、どうしても漢字を目にすることが少なくなり、結果として当該学年の漢字の習得がおろそかになりがちである。

そこで本校クロイドン校舎では、10年ほど前より校舎長（その校舎を担当する派遣教員）が中心となり、「クロイドン一斉漢字テスト」（図2）を実施している。この漢字テストの特徴は以下の通りである。

- ① 小学1年の漢字から解いていき、自分のレベルに応じた漢字テストを受けることができる。
- ② 校舎長手作りの問題で、該当学年の漢字を効率よく学べるために、一文の中に多くの漢字を取り入れている。

クロイドン校舎では、1学期に1度、授業中にこの漢字テストを実施するとともに、1・2学期には1度ずつ「チャレンジ漢字テスト」という名前で、休み時間を使ってこの漢字テストを行っている（図1）。この「チャレンジ漢字テスト」は休み時間に実施するにも関わらず、全校児童生徒の半数以上が挑戦している。

「クロイドン一斉漢字テスト」の問題に関しては、本校ホームページにも掲載して、家庭での学習に役立てるようにしている。

【クロイドン一斉漢字テスト用復習プリントの掲載されている本校サイト】

<http://www.thejapaneseschool.ltd.uk/londonhoshuko/zaigaku/zaigaku-index.html>

3. 補習校における評価のあり方

(1) 補習校における評価の難しさ

日本の教育現場においては、評価基準表に基づきデータを蓄積したり、適宜テストを実施したりして評価に生かしている。

一方で補習校は、年間40回という限られた授業日の中で日本と同じ進度で授業をすることが求められるため、教科書の内容を進めることで精一杯の状況にある。日本で用いられている評価基準表をそのまま導入することも、テストのために時間を割くことも現実的には難しい。

本校では、週1回の授業を支えるために家庭での学習を重視している。「家庭は第二の教室、保護者は第二の担任」として位置づけている。そのため、家庭での学習の成果を持ち寄る場が補習校なのだが、家庭での支援の仕方もばらつきがあり、講師が意図している授業まで高まらないこともある。家庭での保護者の支援に基づいた学習も含めて、評価していくことの難しさも存在している。具体的には、作文の宿題を出したときに、自分の力で書いてくることができる子どももいれば、保護者が支援をしてやっと書いてくれる子どももいる。時には、保護者が書いた作文を視写して提出するケースもある。このようなケースの場合、子どもの日本語の力を見とることは非常に困難である。

(2) 講師の立場より

補習校で授業を行っている講師は、現地採用の人で構成されている。日本で教員をなさっていた人もいれば、初めて子どもたちを教えられる人もいる。経験年数も様々であり、力量も様々である。

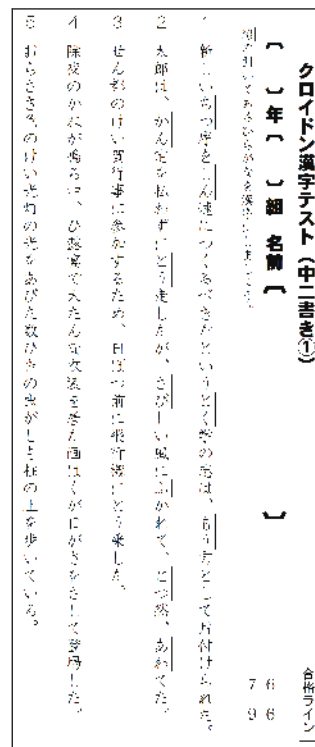


図2 クロイドン一斉漢字テスト

講師の多くは、平日は別の仕事をなさっており、その中で日々の教材研究やプリント作成、テストの採点、保護者との教育相談など様々な業務をされている。講師の熱意と教育的愛情は、特筆に値する。しかし、基本的には時間給で仕事を依頼している方々なので、あまり多くのことを要求することが難しい。

その講師の方から、既存の通知表の課題について意見を聞くことが多かった。

(3) 今までの通知表

図3が本校で使用していた今までの通知表である。学習指導要領の指導事項にのっとり作成されており、内容がとても充実している。しかし、評価項目が詳細にわたるために、講師から改訂の要望があがっていた。

この通知表で3年間実施をしてみて、講師たちからの意見をまとめると以下の三点に集約できた。

- ① 評価項目が多すぎて、見とることが難しい。
- ② 「できた」「がんばろう」の項目しかないため、評価を付けづらい。
- ③ 「頑張っているけれど、力がついてこない」子どもたちをうまく評価してあげることが困難である。

(4) 通知表改訂作業の流れ

補習校の現実と講師たちの意見を参考にしながら、以下の流れで改訂作業を行った(図4)。

- ① 通知表の分析・改訂案の作成：6月上旬まで
- ② 6月23日 第1案を講師に提示
以後、講師より意見をもらう。
- ③ 7月21日 講師からの意見締切
- ④ 夏休み 修正案作成
- ⑤ 9月1日 第2案を講師に提示
校舎別研修会で講師より意見をもらう
- ⑥ 10月13日 最終案を提示
- ⑦ 11月中旬 学級懇談会で保護者へ通知・説明

1. 関心・意欲・態度		氏名		1学期		2・3学期	
〈授業や家庭学習への取り組みの様子〉		1学期	2・3学期	1学期	2・3学期	1学期	2・3学期
関心・意欲・態度	国語に対する興味・関心をもつことができた						
	授業中、静かに担任の話を聞き、集中して課題に取り組むことができた						
	宿題を毎週欠かさず、やり通すことができた						
2. 学習の状況		氏名		1学期		2・3学期	
〈1年間の学習活動〉		1学期	2・3学期	1学期	2・3学期	1学期	2・3学期
聞く(聞いて)	話すことや書くことを決め、必要な事柄を思い出したり、集めたりする						
	事柄を順序立て、話す						
	丁寧な言葉遣いで話す						
	はっきりした発音で話す						
	大事なことを落とさずに、聞く						
	話題に沿って話し合う						
書く(書いて)	書きたいことが明確になるために、事柄の順序に沿った、簡単な構成を考える						
	語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書く						
	自分の書いた文章の間違いなどに気が付き、直す						
	書いたものを読み合い、よいところを見付ける						
読む(こ)	語のまとまりやつながりに気をつけて音読する						
	順序を考えながら、内容の大体をつかむ						
	画面の様子について想像しながら読む						
	文章の中の大事な言葉や文を選び出す						
	文章の内容と自分の経験を結び付けて、思いや考えをまとめる						
	読書を楽しむ						
特徴的・得意	長音、拗音、促音、撥音などを正しく使う						
	助詞の「は」、「へ」、「を」を文中で正しく使う						
	句読点の打ち方や、かぎカッコの使い方を理解して文章の中で使う						
	文の中における主語と述語の関係に注意する						
文字	平仮名を読み、書く						
	片仮名の大体を読み、書く						
	第1学年で習った漢字を読む						
	第1学年で習った漢字を書く						
	姿勢や筆記具の持ち方に注意して書く						
	文字を正しく整えて、丁寧に書く						
3. 通信簿		氏名		1学期		2・3学期	
担任	児童	1学期	2・3学期	1学期	2・3学期	1学期	2・3学期
	保護者						

図3 従来の通知表

1. 関心・意欲・態度		氏名		1学期		2・3学期	
〈授業や家庭学習への取り組みの様子〉		1学期	2・3学期	1学期	2・3学期	1学期	2・3学期
関心・意欲・態度	国語に対する興味・関心をもつことができた						
	授業中、静かに担任の話を聞き、集中して課題に取り組むことができた						
	宿題を毎週欠かさず、やり通すことができた						
2. 学習の状況		氏名		1学期		2・3学期	
〈1年間の学習活動〉		1学期	2・3学期	1学期	2・3学期	1学期	2・3学期
聞く(聞いて)	話したい話題を思い出し、話し合う態度						
	話の順序を考えながら、話したいことを話すことができた						
	丁寧な言葉遣いで、はっきりと話すことができた						
	大事なことを落とさないように聞くことができた						
	話題に沿って話し合うことができた						
書く(書いて)	話したい文章や内容を考え、つながり意識して文や文章を書くことができた						
	自分や人の書いた文章を読み、自分の間違いや人の良いところを見付けることができた						
	第1学年で習った漢字を丁寧に書くことができた						
読む(こ)	話のまとまりや内容を理解しながら読むことができた						
	教科書などの文章をすらすらと音読することができた						
	平仮名や片仮名を読み、書くことができた						
	第1学年で習った漢字を読み、書くことができた						
言葉	言葉の特徴やまじりを理解し、正しく使うことができた						
3. 通信簿		氏名		1学期		2・3学期	
担任	児童	1学期	2・3学期	1学期	2・3学期	1学期	2・3学期
	保護者						

図4 今回の通知表改訂の変遷

(5) 今回の通知表改訂で留意した点

実際の通知表を作成する講師の意見や考えを丁寧にくみ取り、対応策を一つ一つ検討していく。その結果を講師にフィードバックして理解を得るという手法をとり、講師の理解を得ながら改訂作業を行った。

(6) 改訂後の通知表の特徴

① 総合評価の導入

講師からの意見を参考にして、各領域ごとの総合評価を導入することとした。これにより、領域全体を見て評価をすることができるようになり、保護者にとっても分かりやすい評価となった。

② 特に顕著なものみの記載

「学習状況」の欄には、特に顕著なものみに印を付けることとした。従来の通知表では全ての項目に印をつけるようになっていたために、講師が見とりにくかった部分についても評価をしなければいけなかったが、今回の改訂では『講師が見とった中で顕著だったもの』に印を付けるように改訂を行った。これは、年間40回しか授業回数のない補習校ならではの評価のあり方と考える。

5. おわりに

3年間の補習校での勤務を通して実感したことは、「世の中にこんなに頑張っている子ども・講師・保護者たちがいる」ということである。

まず、補習校に通っている子どもたちは「世界一の頑張り屋さん」という言葉をよく耳にしたが、正にその通りだと思う。現地校と補習校の学習を両立して、2つの言語を獲得することは、並大抵の努力では両立できない。補習校で学習しているすべての子どもに敬意を表したい。

次に、補習校での授業を支える講師の先生方の努力も特筆に値する。日本語の力に大きな差がある学級を経営するために、日々の教材研究に取り組み、時間を効率よく使うために、ワークシートの作成や漢字テストの作成などの業務に当たってくれている。また、保護者の相談や子どもたちの個別指導など、講師の先生方の絶え間のない努力と深い教育的愛情により、補習校が成り立っている。

最後に、保護者の方々の努力である。補習校に通う子どもの保護者には、学校運営上の協力を得るとともに、家庭での学習支援を担ってもらっている。毎週土曜日に、補習校で学ばせるのは、子どもだけでなく保護者にとっても大変なことである。保護者の協力がなければ何もできない補習校である。しかし、保護者の協力があれば何でもできるのも補習校であると確信している。

補習校で学ぶすべての子どもたちは、日本の宝であり、国際社会の宝である。世界の舞台で頑張っている彼らに心よりエールを送りたい。